

日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同
海洋生物学分科会（第24期・第4回）議事要旨

日時：令和1年11月6日（水）12:30-13:30

場所：笹川平和財団海洋政策研究所 10階会議室B

出席：大路樹生（スカイプ）、川井浩史、岸本健雄、窪川かおる、白山義久、竹内俊郎、長里千香子、西田宏記（スカイプ）、萩原篤志、原田尚美、堀利栄、三村徹郎、渡部終五

欠席：武田洋幸、中田薫

[議事概要]

開催にあたって、窪川委員長から本日午後のシンポジウムについて説明があった。今回は旅費・手当の支給はないこと、次回（1月9日）は両方支給があることを確認した。

[提案・審議事項]

（1）「学術の動向」に今回のシンポジウムの内容を掲載するのはどうかとの提案があり、5万字以内の特集1を目指す提案が承認された。

海洋政策研究所発行の Ocean Newsletter に今回の講演者・関係者の寄稿を依頼し、多くの方に海洋研究の重要性を周知することとなった。関連する内容の寄稿は海外の研究者の方にもお願いしてはどうかとの意見があった。

[報告]

（1）マスタープラン2020に提案した海洋生物科学研究のネットワーク構想の公表は来年になるが、同提案を積極的に展開してはどうかとのコメントがあった。

[その他]

（1）第24期の提言を出すかどうか、出す場合の内容について意見交換した。SDGsや海洋科学の10年など既存の海洋関係の取組み連携した内容と、1）情報の共有、2）人材育成、3）BBNJや海洋保護区などの問題をネットワークの連携で対応すること、の重要3ポイントを含んだ内容でまとめるなど、大枠が議論されるとともに、様々な助言が寄せられた。今後メール等で内容を詰めていき海洋生物学分科会から出すことになった。

（2）今後の海洋生物学の方向として、海洋関係の取組みを海洋科学の10年と絡めることについて議論した。

机上配布資料

・日本学術会議主催学術シンポジウム「国連海洋科学の10年」プログラム